

浜松科学館 展示リニューアル 2024/2026

基本計画書（決定稿）

令和5年8月

1.はじめに	3
2.展示更新事業	4
3.展示更新のビジョンと視点	5
4.広報・PR	7
5.展示更新スケジュール	8
6.参考	9
7.資料.....	9

1. はじめに

1.1 浜松科学館について

浜松科学館は、浜松市の地域資源の一つである科学（技術）の展示を通じた情報発信や活動拠点として位置付けられています。1986年5月1日の開館時から、ドーム径20mの大型プラネタリウムと体験型の科学展示が話題となり、数多くの市民に親しまれてきました。身近な現象から広大な宇宙まで学べる総合科学館として、小学校等の団体による利用も積極的に行われ、市内だけでなく近隣の市町からも広く利用されています。

開館から30年が経過し、時代や社会の状況が大きく変化中、生涯学習の要望や科学技術の進展による展示の陳腐化等の課題に対応するため、『浜松科学館展示リニューアル基本構想』（2016年5月）が策定され、常設展示の大部分の更新と運営の在り方が抜本的に見直されました。基本構想に基づき「浜松サイエンスベースキャンプ」のコンセプトの下、展示アイテムの新規製作と管理運営体制の全面リニューアルを図り、2019年7月1日にリニューアルオープンして、コミュニケーションを重視した学びの場づくりを目標とした運営を行っています。

リニューアルを機に乃村工芸社・SBSプロモーション共同事業体が指定管理者となり、豊富な展示製作施工の実績と施設運営のノウハウに裏打ちされた斬新な事業展開に努めています。特に、他に類を見ない大規模なサイエンスショーや体験性の高いワークショップ、全編ライブ解説のプラネタリウム投映が人気を集めています。地域に関連したオリジナルのプラネタリウム番組や独自の企画展等を通じて、市民が地域に誇りと愛着を抱き、文化としての多様な科学を楽しめる機会を提供していることも特徴です。



1.2 ミッション・事業計画

浜松科学館は、以下のミッション（使命）と4つの事業目標に基づいて3か年ごとに中期計画を策定し管理運営を行っています。第2次中期計画は、科学館スタッフが運営の拠り所として自ら話し合い、第一次中期計画の成果を検証して立案したものです。

使命と4つの事業目標は「3. 展示更新におけるビジョンと視点」の出発点となる考え方となっていて展示更新のビジョンと5つの視点に発展しています。

展示リニューアル2024/2026（以下「展示更新」という）では、これまでの運営経験の蓄積から、より豊かな学びと交流の場づくりを目指して、空間構成の観点でビジョンや展示構想を検討する一方、新たな社会的要請に応えられる事業とすることを狙いとしています。

第2次中期計画（3か年／2022年度～2024年度）



使命／ミッション		
浜松科学館は、科学を入り口とした多様な文化交流を通して人々をつなぎ、地域への誇りと愛着をもとに、創造都市を牽引する科学館となることを目指します。さらに、誰もが科学を楽しみ、安心して学ぶことができ、ひとりひとりの好奇心を育む場として地域に開かれた科学館となります。		
事業目標		
1	創発的な学びの場を構築	浜松科学館は、多様な利用者それぞれに向けた科学教育のコンテンツを自ら作り上げ、コミュニケーションを重視した創発的な学びの場を構築します。
2	地域に開かれ、市民に愛される科学館づくり	浜松科学館は、公共施設として利用者だけではなく地域全体に開かれた場をつくり、職員が地域と積極的に関わりをもち、市民に愛される科学館となります。
3	協働による新たな視点の提供と地域固有の価値向上	地域固有の価値を高めるために、さまざまなパートナーと協働することで浜松科学館ならではの新たな視点を提供していきます。
4	持続可能性の向上を目指した適正なマネジメント	浜松科学館は、施設の持続可能性を向上させるため、設備やコンテンツ、人的資源を適正にマネジメントし、独立性の高い経営を行います。

2. 展示更新事業

2.1 事業概要

浜松科学館では、2019年のリニューアルから6年目にあたる2024年度と8年目にあたる2026年度に展示の一部を更新することが計画されています。先行きが不透明で将来の予測が困難な状況にあって、不測の変化に機敏に対応し、複雑な情勢にも柔軟に適応できる人材を育むことこそ、これからの科学館の展示に求められる重要な視点であると考えます。問題・課題の発見や行動を起こすための好奇心・探究心を生み出す交流の場を目指して、最新の科学的知見や科学技術の新たな動向を見据え、従来の常識にとらわれず常設展示室全体で新たな学びのストーリーを展開します。(参照：P9. 事業スキーム)

2.2 プロジェクトメンバー

当館の専門職員を中心に設置者（浜松市担当者）にも加わっていただき、分野横断的なメンバー構成でプロジェクトチーム（PT）を結成し、展示更新業務を担います。

所属
浜松科学館 チーフエディタ
浜松科学館 サイエンスチーム リーダー
浜松科学館 天文チーム サブリーダー
浜松科学館 RD チーム リーダー
浜松科学館 アテンダントチーム リーダー
浜松科学館 経営管理グループ マネージャー
浜松科学館 事業企画グループ マネージャー
浜松科学館 副館長 兼 統括責任者
株式会社乃村工藝社 ビジネスプロデュース本部 公民連携プロジェクト開発部 プランニングディレクター
浜松市 市民部 創造都市・文化振興課 生涯学習推進グループ 主任
浜松市 市民部 創造都市・文化振興課 生涯学習推進グループ 長

(敬称略)

2.3 PT 会議の開催

展示更新に関わる PT 会議を定例会として開催（週 1 回程度）しました。

- モニタリング内容共有、スケジュール考案
- 現在の展示コンセプトの共有と現状の議論、展示更新目標の検討
- 調査や運用経験にもとづく刷新、改良展示の検討
- 展示更新基本計画及び附属資料の作成
- 有識者やステークホルダーへのヒアリング、最新の展示動向の調査検討

2.4 モニタリング調査

展示更新基本計画案の策定に先立ち、市民や利用者から求められる展示の在り方を導き出すことを目的として、展示モニタリング調査を実施しました。既存展示をさまざまな角度から評価し、現状及び 2024 年度以降の運用課題を整理しました。

A. 職員による展示評価ワークショップ

実施日：2022 年 10 月 28 日（金）、11 月 4 日（金）

館内全職員を対象とし、「展示ストーリーブックとの関連性」「学習効果」「ユニバーサル性」「メンテナンス性」「安全性」「楽しさ」等の視点から各展示の評価を行った

調査結果 浜松科学館展示評価シート

B. 利用者観察

実施日：2022 年 10 月～11 月

職員が各ゾーンに一定時間滞在し、利用者が展示を体験する様子を観察。意図通りに体験ができていないかを三段階評価で測るとともに、その展示に触れた人数を計測した

調査結果 展示利用者数と学習効果

C. ボランティアメンバーへのヒアリング

2022 年 12 月 17 日（土）

浜松科学館ボランティアメンバー（3 名）を対象に、展示に関するヒアリングを行った

調査結果 ボランティアヒアリング議事録

D. 有識者へのヒアリング

実施日：2023 年 2 月 1 日（水）

浜松科学館運営委員会の上野征洋委員長を招聘し、展示更新に関する助言等をいただいた

調査結果 識者ヒアリング議事録

調査報告は「浜松科学館 展示更新のためのモニタリング報告書」を参照

3. 展示更新のビジョンと視点

3.1 ビジョン

自由に楽しみ、「面白そう」があふれる広場

Society5.0^{※1}における教育・人材育成構想では、「多様性」「公正や個人の尊厳」「多様な幸せ」の価値を柱として、探究力や意欲をもって主体的に学ぶ力を育むことが求められています。さまざまな領域中から自ら学び方を選択し、折々のパートナーと協働しながら課題に向かっていくことが大切になると考えます。浜松科学館はあらゆる人に開かれ、それぞれが自由に楽しみ、自由に交流する空間（広場）をつくることで「フィジカルな場としての価値」を生み出していきます。



3.2 5つの視点と実施内容

Society5.0の時代に向けた新たな学びの場の構築には、従来の知識習得型や集団的均一学習の発想とは異なる視点から提供できる価値を探りました。展示更新ビジョン〈自由に楽しみ、「面白そう」があふれる広場〉を基に、以下5つの価値創造の場づくりとしてリニューアルの実施内容を示します。

視点1. プロセスを重視した探求・創造・交流の場

既存のミニワークを発展させ、2階常設展示室内に「ROOM」を新設。楽しみながら主体的に「考える」「調べる」「試す」「観察する(見る)」「作る」「発信する」「会話する」「交流する」場とする。みらいーらステージとも連動させ、創造的なプログラムを展開する。

基盤となる概念 Society5.0 (探求的・主体的な学びの場づくり)

実施内容

- 「ROOM」の新設と「WAGON」への展開
- 「広場」としての多面的活用－実験・観察・工作に加えて演奏、パフォーマンス、演劇等表現の舞台

視点2. 学びと楽しみ(エンジョイメント)の融合による愛着・長期的記憶の形成の場

市民の科学館体験をより豊かなものとするために、利用者同士や利用者とスタッフとの相互作用によって生まれる社会的要素を意図的に組み込む。多様な主体と関わることで共創的な価値を求め、人々と科学との長期的な関係性の構築に貢献する。

基盤となる概念 STEAM^{※注2}、Society5.0 (フィジカルな場としての価値創造)

実施内容

- 多様な子どもたちの好奇心を育む場と、安心して楽しめる居場所の提供
- 多様性を前提とした協働的な学びのプログラムの実現

視点3. 社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン^{※注3})に基づく共創の場

社会を構成する多様な人々に対し、科学館を利用しにくい要因を低減させ、より親しく展示空間を楽しんでもらえるようにする。UD^{※注4}やアクセシビリティ^{※注5}を考慮するとともに地域コミュニティとの連携で新たな展示価値をもたらす。

基盤となる概念 SDGs^{※注6} (持続可能社会の形成)

実施内容

- DE&I^{※注7}ポリシーに基づくオープンな展示製作プロセス(市民参加)の導入
- 館内アクセシビリティの向上
- 多様な子供達の好奇心に応える場の提供
- 地域の力を結集した持続可能な展示更新…更新する展示にはできる限り地元産の材料や廃材を使用。地域の業者を中心とした制作体制で展示更新を推進。

視点4. 文化のゆたかさに触れる場

展示によって、利用者が科学概念に裏打ちされた〈文化としての科学〉を享受できる。更に、科学がもたらす世界への新しい見方や関わり方を知り、社会や自己を再発見し、新たな知見や洞察を得る。

基盤となる概念 Well-Being^{※注8} (文化を感じることで人間らしいゆたかさを追求する)

実施内容

- 天野浩博士のコーナー刷新による最新の研究成果や先端科学動向の展示化
- ストーリーブックの更新(地域の風土や文化を伝え、地域への関心を深め愛着を醸成する)
- 人間的価値観に基づく展示やプログラムの提供
- 笹ヶ瀬隕石のシンボル展示化によるシビックプライドの構築

視点5. フィジカル空間/サイバー空間ともに開かれた場

デジタル技術による体験性の拡張を推進する。科学館でのリアルな体験とバーチャルな体験を各人が自分なりに意味づけをすることを支援する。

基盤となる概念 Society5.0 (DX^{※注9}を意識したデジタルの活用)

実施内容

- 科学館と家庭や個人を結ぶ情報集積機能
…館内コンテンツのアーカイブ化、オンラインコンテンツの充実・新設
- 情報公開、アクセシビリティを考慮したWebサイトリニューアル

※具体的な実施内容は「(資料1)実施内容案」を参照

※改良・撤去の展示一覧は「(資料2)刷新・改良予定展示リスト」を参照



4. 広報・PR

主に動画を中心に様々なメディアを複合的に使用した PR を行うことで、広い周知を図ります。また地域とのリレーションシップ構築の観点から、市内教育機関や、浜松及び近隣市で活躍する人々と連携した企画を行います。

①ティザー期 (第1期: 2024年12月~/第2期: 2026年12月~)	
概要	<ul style="list-style-type: none">・地域に密着した広報施策・オウンドメディアを活用した広報・ニュースリリース、パブリシティなどのニュース発信型広報
施策	<ul style="list-style-type: none">・リニューアル告知ポスター、チラシ・COMPASS でのリニューアル告知・静岡新聞・中日新聞、びぶれ浜松での告知・浜松科学館 HP 告知・オフィシャル SNS 告知・YouTube チャンネル告知・プレス向け内覧会の開催・プレスリリース配信・大型商業施設、イベントでの PR 活動

②オープン期 (第1期: 2025年3月~7月/第2期: 2027年3月~7月)	
概要	<ul style="list-style-type: none">・動画ワンコンテンツマルチユース戦略・web を中心とした広告展開
施策	<ul style="list-style-type: none">・コンセプトムービー作成、展開 TV、SNS、Web サイト 等・web 広告 (LINE、Instagram、YouTube 等)

※工事に伴う常設展一部閉鎖のお知らせは工事開始1~2ヶ月前からの告知を予定
※詳細は「(資料3) 展示リニューアル2024/2026 プロモーション計画書」を参照

6. 参考

事業スキーム

名称	浜松科学館常設展示更新事業（仮称）
事業期間	2024年度（第1期） 2026年度（第2期）
事業予算	第1期 48,999,500円 第2期 50,000,500円（いずれも消費税込金額） 協定書第31条第4項及び第5項の規定に基づき、業務完了検査後、展示更新に関する指定管理料として浜松市が指定管理者に支払う。
事業スキーム	1 事業形態 DBO協定書に基づく指定管理業務の期間内事業として実施 2 目的 「各科学分野の進展や最新の科学的知見、展示協力企業の持つ科学技術の状況を鑑み、指定管理期間を通じて常設展示数の1割程度（企業協力展示を除く）を目安に計画的に更新していくものとする。」（運営業務に関する要求水準書40頁抜粋）

7. 資料

（資料1）浜松科学館 展示リニューアル2024/2026 実施内容案

（資料2）刷新・改良予定展示リスト

（資料3）浜松科学館 展示リニューアル2024/2026 プロモーション計画書

注

注1：Society5.0（ソサエティ5.0）

内閣府の科学技術政策として掲げられる、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会構想。

注2：STEAM（スティーム）

科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術・リベラルアーツ（Arts）、数学（Mathematics）の5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念。探究と創造のサイクルを生み出す、分野横断的な学び。

注3：社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）

社会的に弱い立場にある人々をも含め市民一人ひとりを排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う考え方。社会的排除の反対の概念。

注4：UD（ユニバーサルデザイン）

文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの個人の違いにかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できることを目指した建築（設備）・製品・情報などの設計（デザイン）のことであり、またそれを実現するためのプロセス（過程）。

注5：アクセシビリティ（Accessibility）

「近づきやすさ」、「利用しやすさ」等と訳される。施設やサービス、製品に対し、年齢や言語、身体能力の違い、障害の有無等によらず、様々な人が同じように使用できる状態やその度合いを指す。

注6：SDGs（サステナブル・デベロップメント・ゴールズ）

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓う。

注7：DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）

多様性（ダイバーシティ）、包括性（インクルージョン）に、エクイティ（公正性）を加えた概念。多様性を認め、それぞれの属性や状況（年齢、性別、文化、国籍、民族性、宗教、障害、階級、収入等）による機会取得の不都合がないこと（公正であること）を目指す考え方。

注8：Well-Being（ウェル・ビーイング）

Well（よい）と Being（状態）が組み合わさった言葉で、身体的・精神的・社会的に良好な状態を表す概念。一時的・瞬間的な良好ではなく、持続的な良好状態を指す。

注9：DX（デジタルトランスフォーメーション）

デジタルテクノロジーを使用して、事業プロセスや文化、体験を新たに創造、あるいは既存の状態を改良し、変化を続ける事業や市場の要求を満たすプロセス。

